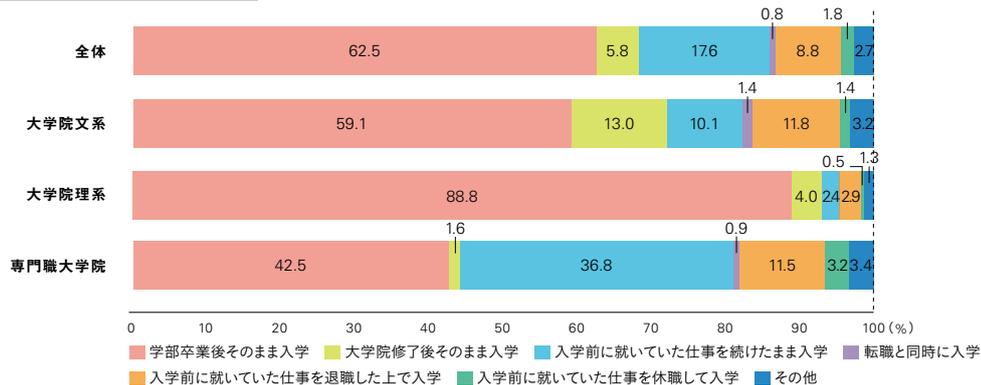


## 7. 大学院学生のキャリア・研究環境・経済状況

図表7-1 大学院入学までのキャリア



図表7-2 大学院進学理由 1位～4位 (複数回答)

### 大学院文系 (回答者数:347名)

- 1位 学部で学んだ学問をさらに探究したい (58.8%)
- 2位 大学教員を目指している (34.3%)
- 3位 希望の職種に就職するために不可欠なより深い知識を得るため (33.7%)
- 4位 学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい (26.2%)

### 大学院理系 (回答者数:375名)

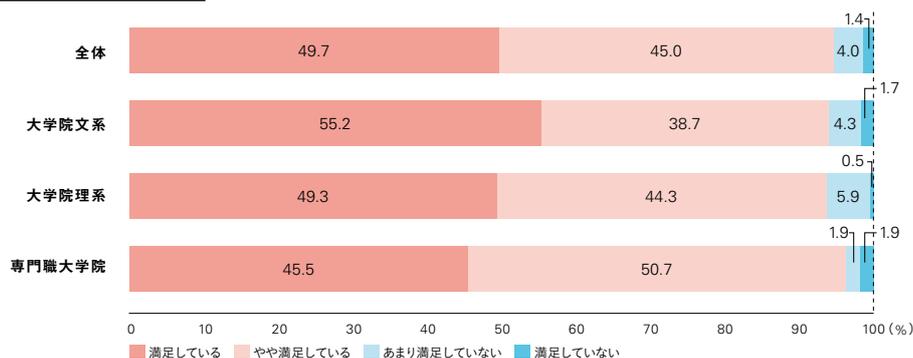
- 1位 学部で学んだ学問をさらに探究したい (76.0%)
- 2位 希望の職種に就職するために不可欠なより深い知識を得るため (35.7%)
- 3位 就職する意志がなかった (19.5%)
- 4位 研究所・シンクタンクを目指している (12.3%)

### 専門職大学院 (回答者数:437名)

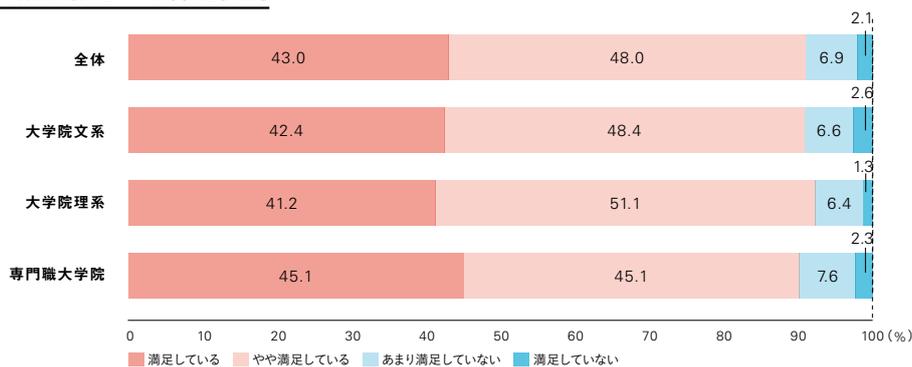
- 1位 希望の職種に就職するために不可欠なより深い知識を得るため (39.6%)
- 2位 現在の仕事においてスキルアップを図るため (37.3%)
- 3位 国家資格を取得するため (33.0%)
- 4位 学部で学んだ学問をさらに探究したい (23.6%)

大学院学生の入学までのキャリアは、理系では9割が「学部卒業後そのまま入学」しており、その比率は、文系では6割、専門職大学院では4割にとどまります。大学院進学理由も大学院種別によって大きく異なっています。文系の場合「学部で学んだ学問をさらに探究したい」が6割、次いで、「大学教員を目指している」「希望の職種に就職するために不可欠なより深い知識を得るため」「学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい」がそれぞれ3割程度です。他方、理系では、「学部で学んだ学問をさらに探究したい」が4分の3と圧倒的です。専門職大学院では、「希望の職種に就職するために不可欠なより深い知識を得るため」「現在の仕事においてスキルアップを図るため」「国家資格を取得するため」に集中しています。

図表7-3 研究指導への満足状況



**図表7-4 授業・研究環境への満足状況**

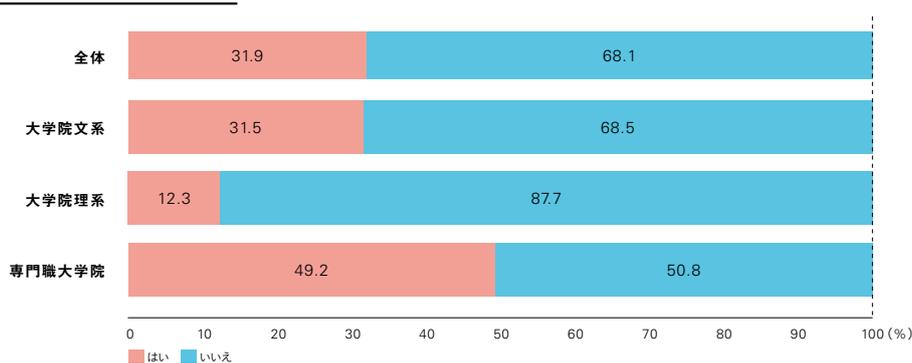


研究指導ならびに研究環境への満足度は、いずれの種別でも「満足している」と「やや満足している」に集中しており、総じて満足度は高いことがわかります。

**図表7-5 学費・生活費の収入源** (主なものを2つまで選択)

	N	近親者(親・配偶者など)からの何らかの支援	アルバイト	奨学金	現在の就業による収入	本人の預貯金・株式・不動産など	その他
全体	1150	59.1	32.0	31.0	24.6	16.3	1.9
大学院文系	342	60.8	45.0	27.8	22.5	14.9	1.2
大学院理系	374	71.7	43.6	43.0	7.2	6.7	1.9
専門職大学院	434	47.0	11.8	23.3	41.2	25.8	2.5

**図表7-6 経済的に独立しているか**



大学院学生の現在の学費・生活費についても種別によって異なっています。文系では「近親者による支援」と「アルバイト」が主流です。理系では、文系以上に「近親者による支援」の比率が高く、次いで「アルバイト」と共に「奨学金」の比率が高くなっています。専門職では、「近親者による支援」と「現在の就業による収入」に集中しています。そして、「経済的に独立している」比率は理系で最も低く、専門職でも5割程度にとどまっています。